

a

s

s

a

g

愛よ、愛



岡本かの子

Okamoto Kanoko

パサージュ叢書

1

メタログ

愛よ、愛

岡本かの子

Okamoto Kanoko



ハサージュ叢書

1

メタローグ



パッセージ叢書 |
passage collection

愛よ、愛

岡本かの子

1999年5月8日 第一刷発行

責任編集

高丘 卓

造本設計

巖谷純介

装画・ロゴマーク

多田 順

発行者

今 裕子

発行所

株式会社メタログ

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-12-2 藤森ビル

TEL.03-5275-1595 FAX.03-5275-1598

印刷・製本

株式会社シナノ

定価はカバーに表示してあります。

落丁・乱丁は小社宛にお送りください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。

©1999 METALOGUE Printed in Japan

ISBN4-8398-3006-1

愛よ、愛●目次

I

「わたし」の気持ち

現代若き女性氣質集 10

女性の不平とよろこび 16

時代色——歪んだポーズ 21

異性に対する感覚を洗練せよ 24

女性崇拜 26

II

恋わずらい

山茶花 さざんか
30

桃のある風景 32

或る男の恋文書式 38

病房にたわむ花 43

かの子抄（二） 48

Ⅲ

巴^バ里^リという幸福

異国食餌抄^{しよくじ} 54

巴里の秋 63

巴里の唄うたい——ダミア 69

売春婦リゼット 73

巴里のむす子へ 83

IV 結婚について

新時代女性問答 90

家庭愛増進術——型でなしに 98

良人教育十四種 104

(1) 気むずかしい夫 (2) 短気な夫 (3) 病身な夫 (4) 潔癖な夫

(5) 頭のよすぎる夫 (6) 交際下手な夫 (7) 学者肌の夫

(8) 親や親類と折合の悪い夫 (9) 失業している夫

(10) 大酒家の夫 (11) 移り気の夫 (12) 家にばかりいる夫

(13) 家事に口出ししすぎる夫 (14) 職業婦人の夫

岡本一平論——親の前で祈禱 112

愛よ愛 124

V

小説

かの女の朝

130

VI

さくら百首

桜
166

岡本かの子のパサージュ

岡本かの子は昭和の「白鳥麗子でございます」だった

桜井亜美

190

岡本かの子という人

196

岡本かの子略年譜

200

初出・所収一覧

204

I
「わたし」の気持ち

現代若き女性氣質集^{かたぎ}

これは現代の若き女性氣質の描写^{びやうしや}であり、諷刺^{ふうし}であり、概観^{がいかん}であり、逆説である。長所もあれば短所もある。読む人その心して取捨^{しゆしや}よろしきに従^{したが}い給え。

○彼女はじつとして居^いられなくなった。何か試^{こころ}み度^たがつている。自分を試^{ため}して見^み度^たがつている。自分の市場価値を。

○「恋など馬鹿^{ばか}らしくて出来^{でき}なくなりましたわ」と言う。「けれども愛の気持ちだけは失^うい度^どありません。」

○彼女に取^とつてスピーディで無いものは魅力^{みりよく}が無い。それで退屈な時は、せめて

街の自動車を眺める。

○「結婚？　そうですね。出来るだけ我儘をさして呉れる男か、それとも絶対的に服従させられる強い男とならばね。」

○チヨコレートを食べられる暇さえある職業だったら職業というものは何という好ましいものでしょう。

○繕った靴下でも穿くときは皺の寄らないように。

○「お習字、生花、お琴、おどり——こういうものに却ってモダンティを感じ、習い度いと思うことはあるけれど、さて、いざとなつて見るとね。」

○「何でも断られて顔が赭くなるようじゃ駄目よ。」

○女に向つて機嫌を取るような男も嫌いなら、見下げて権柄づくな男も嫌い。

○自分で慥えたものくらい氣に入るものはない。洋服でも、お友達でも。

○「お金入れの口を開けてみて、お金が一文も無いときは何だか可笑くつて可笑くつて、あはあは笑うのよ。たとえば困るのは知れ切つていても、若さのせい、か

知らん。」

○「訣わかれの挨拶あいさつのお辞儀じぎをしてしまつてから、また立話をする。あんなことあたし達にはないわ。」

○「おなかが減すいて家へ帰る電車がなかなか来ないときだけ、ちよつとセンチになるわよ。」

○来年あたりのことまでは見当がつくけれど其その先は考えても判わからない。考える
と頭が痛くなるから止よす。

○ついでに洗う洗濯物が無くて、お湯にどつぷり入るときくらい嬉しいことはない。

○「どうしてこう心配事が出来ない性分しょうぶんだろう。もっとも心配事があると直すぐレコードをかけて直ぐ紛はぐらかしちまう癖くせがあるんだけれど。」

○牡丹ぼたんや桜のように直ぐ散ちつてしまふ花には同情が持てない。枯かれてもしがみ付ついている貝細かいさい工草こうそうや百日草ひやくにちそうのような花に却かえつて涙がこぼれる。

○ラグビーを見ているときだけ男の魅力を感じる。

○子供は少し不器量なのが好き。

○「自分ながら利口過ぎるのが鼻につくから、少し馬鹿になる稽古をしようと思うんだけど。」

○お金があると、ついお友達と円タクに乗ってしまつて。

○大概な事は我慢が出来るけれど。鈍感なものだけはトテモ堪らない。

○ジャズの麻痺、映画の麻痺、それで大概の興味は平凡なものに思える。始終習

慣的に考えているのは「何か面白いものは無いかならん。」

○「一生のうち一度だけ、巴里は死ぬほど行って見度いわ。」

○フレッシユの苺クリーム、ブライトな日傘、初夏は楽しい。

○折角ハイキングに行っても、帰つて来て是非銀座へ寄らねば何となく物足り無い。

○偉くなろうなぞとはちつとも思わない。空虚な気がする。それより刹那々々の

充足感。

○そりゃ時々はくさることもあるわ。希望の飛行機が経済的事情にぶつかって、うまく飛行が運ばない時の気分のエアポケット。けれども理由を運動の不足になすり付けてしまつて、せっせとスポーツすれば癒^{なお}る。

○わたくし達は、外でお友達と一緒いっしょの時は「ノシちやえ」なぞと随分ずいぶん、男のよう
な言葉も使つてわあわあ騒ぐ。けれども家へ帰つて家庭の人となる時は、まる
で別人になつておとなしい良家の娘になる。それでいて、どっちにもちつとも
矛盾むじゆんを感じないのは、われながら不思議だ。

○「一生に一度は真剣しんけんな気持ちにさせられるものにぶつかってみたいと思うことは、そりゃあたし達にだって、ちゃんとあるわ。」

○「流行なんてつまんないと思うんだけど、やってみれば悪い気持もしないものね。」

○「第一、朗ほからかにしなくつちや損そんじやなくて。」